

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人さいたま市文化振興事業団	
施 設 名	さいたま市文化センター	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額（総額）	3,243	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	3,243	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小学校アウトリーチ 音楽コンサート 「発見！音楽の魅力」	5月23日（水） ～10月18日（木）	【出演者】 磯絵里子（ヴァイオリン）・塚越慎子（マリンバ）・須川展也（サクソ）・Feelin'（打楽器とピアノ）・小川真由子（フルート）	目標値	8,000
		さいたま市立 徳力小学校ほか9校		実績値	6,050
2	高齢者ふれあい事業	10月3日（水） ～2月24日（日）	【出演者】 Alley-oop（ヴァイオリンとピアノ）・JILLTONE（ピアノとフルートとマリンバ）・立川談慶・三遊亭彩大・Primavera（ソプラノとピアノ）	目標値	500
		グリーンヒルうらわ ほか4施設		実績値	456
3	特別支援学校 アウトリーチ ふれあい音楽コンサート	9月22日（土） 1月29日（火）	【出演者】 ルミナスカルテット（弦楽四重奏）・飯田映理子（ソプラノ）・田中裕太（テノール）・天海潤子（ピアノ）	目標値	300
		さくら草特別支援学校 ひまわり特別支援学校		実績値	238
4	ダイバーシティ プログラム 「コーラスチャレンジ」	11月13日（火）	【出演者】 アカペラグループINSPI・さいたま桜高等学園音楽部	目標値	20
		さいたま桜高等学園		実績値	295
5	外国人プログラム 「落語との出会い -字幕落語-」	1月14日（月・祝）	【出演者】 立川談慶・ピーターマクミラン	目標値	50
		国際交流基金 日本語国際センター		実績値	127
6	子ども伝統芸能 まつり	8月8日（水） 8月9日（木）	【出演者】 さいたま市立大牧小学校見沼太鼓クラブほか6団体、大島輝久（喜多流シテ方）、奥津健太郎（和泉流狂言方）ほか	目標値	700
		さいたま市文化センター 小ホール		実績値	345
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	9,570
				実績値	7,511

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

【要望書で掲げていた社会的役割（ミッション）や地域の特性について】

さいたま市文化センターの社会的役割（ミッション）は、「全ての市民が文化芸術を通して、生き生きと心豊かに暮らせる社会をつくる」ことと「市民のみならず、行政、企業、教育機関、福祉機関、NPO 団体等様々な団体とパートナーシップを組むことで地域に求められるセンター（中心）を目指すこととした。さいたま市文化センターのあるさいたま市は市民意識調査によると「高齢者、障害者が暮らしやすいまち」や「子育てのしやすいまち」が上位を占め、人々が心豊かに暮らせる社会をつくっていくために、何らかの理由でさいたま市文化センターに来ることが出来ない子どもたち、高齢者、障害者などにアウトリーチ事業を行うことを目標とした。

【事業が適切に組み立てられ当初の予定通りに事業がすすめられた点について】

特別支援学校アウトリーチふれあいコンサートでは公演終了後の教職員に対するアンケートにおいて、「笑顔や児童生徒がそれぞれの方法で楽しさ等の気持ちを表現していた」や「児童生徒の視線がすごく集まっているように思えた」などの意見をいただくことができ、音楽の持つ効果を確認することが出来た。また、「児童生徒は家庭の生活も含めこのような機会はとても少ないのでありがたい」との感想をいただくこともでき、さいたま市文化センターに来ることができない子どもたちに文化芸術を通じた普及啓発事業を実施できたと考えられる。

【今後について】

特別支援学校アウトリーチふれあいコンサートでは教職員のアンケートに「はじめて本校に来て本番の様子（聞く態度とか）を知るよりも一度、見学をしてから本番を迎えてもらおうとまた違う接し方とか音色とか選曲とかがわかるかもしれない」との意見をいただいた。また、鑑賞した保護者からも「耳が聞こえないので理解できていないと思う」という意見もいただいたため、児童生徒がどのような状況で学校生活を送っているかなどを今まで以上に調査したうえで、計画をする必要があると感じた。



特別支援学校アウトリーチ ふれあい音楽コンサートの様子

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

高齢者ふれあい事業では高齢福祉施設職員の公演終了後のアンケートによると、このようなアウトリーチコンサートが「いつもと違うことや音楽を聞くことで施設の活性化につながった」という意見があり、アウトリーチコンサートも今後、年に2～3回程度開催を望む意見を確認することが出来た。また、高齢福祉施設でのアウトリーチコンサートの開催は地域の方々との交流の機会にもなるという意見もあり、今後の地域ニーズを把握することもできた。アウトリーチコンサートでは極力、（公財）さいたま市文化振興事業団が管理運営する文化芸術の人材バンク「SaCLaアーツ」からニーズにあったアーティストを起用している。今回の普及啓発事業でも小学校アウトリーチ音楽コンサート「発見！音楽の魅力」で6事業、高齢者ふれあい事業で2事業、特別支援学校ふれあいコンサートで2事業でSaCLaアーツ登録者をアーティストとして派遣しており、劇場・音楽堂がもつ文化資源を有効に活用し、地域の人材が地域を支える構図を創り上げることが出来た。よって、助成に値する文化的、社会的、経済的等が継続して認められると判断できる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

【要望書で掲げていた普及啓発事業の目標について】

さいたま市文化センターは「全ての市民が文化芸術を通して心豊かに暮らせる社会をつくる」ことをミッションとして掲げている。このミッションを達成するために必要と定義しているものが「まちの活性化」である。「まちの活性化」では何らかの理由でさいたま市文化センターなどの文化施設に来ることが出来ない子どもたちや高齢者、障害者、日本語の不自由な外国人に向けた多様性を意識したアウトリーチ事業を実施することで「まちの活性化」に貢献するものとした。

【目標の達成に向けて進捗している点について】

外国人プログラム「落語との出会い-字幕落語-」において、公演終了後、公演を鑑賞した外国人にアンケート調査をしたところ、落語を鑑賞した経験は、ほぼ皆無である状態であった。この公演では、落語の上演中、字幕とイラストをあしらえた映像の投影を行い、理解の促進を図った。その結果、鑑賞した外国人から、「字幕やイラストが落語理解への一助となった」と回答している。また、日本語国際センターで開催したことから、日本語を学ぶ外国人の鑑賞が多く、日本語で分からなかったことを英語の字幕にしたことで、自らが学ぶ日本語学習の一助にもなったとの回答もあり、他分野への波及効果も見受けられる。このような点から、異国で生活する外国人にも文化芸術の素晴らしさを届けることができ、多様性を意識したアウトリーチ事業を実施できたと考える。

【今後の課題について】

外国人プログラム「落語との出会い-字幕落語-」において、公演を鑑賞した日本人の方から「日本の伝統芸能は感じる部分も多いので雰囲気も重要ではないか」というアンケート回答があった。普及啓発事業の目標として伝統文化の普及についてどれくらいの成果があげられるかを意識することも目標として掲げていた。今回は、外国人アンケート結果にもあるように、落語を通じた「日本語」についての感想が多かったため、ホール公演ということで演芸場のような雰囲気を創り出すことは難しいが、出囃子などを実演するなど伝統文化の普及に向けて雰囲気づくりに努めていきたい。



英語字幕とイラストを使用した落語上演



理解促進のため、英訳付きのパンフレットを配布し、公演を実施

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間について】

小学校アウトリーチコンサートについては、申請書記載の日程通り実施できた。高齢者ふれあい事業は、協力団体である（社福）さいたま市社会福祉事業団や（公社）さいたま市シルバー人材センターと調整し、実施予定期間の日程で実施できた。特別支援学校アウトリーチは、1校は申請書通りの日程で実施し、1校は学校と調整後決定し実施した。ダイバーシティプログラムは、申請書の日程で進め、ワークショップについては、特別支援学校の高校生の進捗状況を見て1回少ない形での開催となった。外国人プログラムについては、国際交流基金日本語国際センターの協力が得られ、来日している外国人研修生が最大人数である日程を調整することができた。子ども伝統芸能まつりは、喜多流能楽師や市内伝統文化団体の協力を得ながら申請書の通りの日程で実施ができた。

【事業費について】

当初の計画よりも、事業費は全体で、約21%の削減となった。その理由としては、主に高齢者ふれあい事業、特別支援学級アウトリーチ事業の出演料が予定よりも低くなったことがあげられる。具体的には、開催施設と出演アーティストの調整をした際に、当センターのアーティスト登録システム「SaCLaアーツ」のアーティスト活用が可能となり、SaCLaアーツのアーティストは、社会貢献を目的としているため、出演費を低廉に押さえることができた。他の理由としては、チラシデザインを当センターで作成し、印刷のみを外部業者に依頼した結果、印刷費コストを削減できたこともあげられる。収入については、子ども伝統文化祭のみが入場料を徴収しており、この収入予算に対して、約46%の収入となった。その原因としては、平日の開催が考えられる。今回は、喜多流能楽師、市内伝統文化団体と日程を調整し、平日の日程となったが、夏休みの期間であるため、親子の集客が見込めることを予測していたが、結果としては予算よりも低くなった。今年度は、休日の開催であるため、収入予算の達成をしていきたい。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【要望書で掲げていたミッション（ビジョン）について】

さいたま市文化センターの社会的役割（ミッション）は「全ての市民が文化芸術を通して、生き生きと心豊かに暮らせる社会をつくる」ことと「市民のみならず、行政、企業、教育機関、福祉施設、NPO団体等様々な団体とパートナーシップを組むことで、地域に求められる（中心）を目指す」としている。このミッション達成に向けて、さいたま市文化センターではビジョンとして「まちの活性化」「施設の活性化」「人材の活性化」という3つの活性化を掲げることで劇場・音楽堂等が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮することができるものとした。

【ビジョンを最大限発揮するための資源と発揮された点について】

（1）SaCLaアーツ

SaCLaアーツは（公財）さいたま市文化振興事業団が管理運営するさいたま市民の文化芸術・生涯学習に関わる人材バンクである。平成30年度の時点で266団体（人）の登録があり、45事業の活動を行った。（平成30年度活動報告書参照）今回の普及啓発事業においても小学校アウトリーチ音楽コンサートに出演した塚越慎子、Feelin'、小川真由子、高齢者ふれあい事業に出演したAlleeyoopの志村和音、JILLTONE、特別支援学校アウトリーチふれあいコンサートに出演したルミナスカルテット、飯田映理子など10事業に関わった。これらのアーティストはさいたま市に在住など、さいたま市にゆかりのあるアーティストである。アーティストと地域住民、学校、施設などが関わる機会を構築し、さいたま市全域で文化芸術に関わる機会を提供する「まちの活性化」とさいたま市民を中心に文化芸術に関する人材育成を図る「人材の活性化」が達成できたと考える。

（2）さいたま市文化センター小ホールの能舞台

さいたま市文化センター小ホールは能舞台を設置できる機能を有する。能舞台の設置には附属設備利用料以外に、設置にかかる人件費などが高額のため、一般利用は、ほぼ皆無であり、公立文化施設が所有する機能を発揮できずにいた。子ども伝統芸能まつりでは、地域の伝統芸能団体の発表の後、能舞台を設置し、大島能楽堂の大島輝久によるワークショップと親子鑑賞ができる「日本の伝統芸能さいたま能・狂言」を開催した。参加したお客様からのアンケートでは「能舞台を初めて見た」と回答した方も多く、「子どもたち、大人も含め自分の国の文化を知ること大切だと感じた」とのご意見をいただくことができ、施設のハード面を活用した「施設の活性化」を達成できたと考える。



SaCLaアーツ登録の塚越慎子による
小学校アウトリーチコンサート



さいたま市文化センター小ホールに設
置した能舞台

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【要望書で掲げていた地域のニーズについて】

さいたま市各種調査結果で上位を占めたものとして、平成25年度に実施したさいたま市民意識調査によると魅力的な都市となるためには「高齢者、障害者が暮らしやすいまち」「子育てのしやすいまち」がある。地域のニーズとしてはさいたま市文化センターが掲げる社会的役割（ミッション）である「全ての市民が文化芸術を通して生き生きと心豊かに暮らせる社会をつくる」の実現のため、さいたま市文化センターに足を運ぶことが少ない高齢者、障害者、子どもたちに向けての普及啓発事業を実施することが地域のニーズに答えられるものとした。

【地域の実演芸術の振興など地域の文化芸術の発展につながった点について】

今回の普及啓発事業でも実施をした特別支援学校アウトリーチふれあい音楽コンサートは平成24年度から実施している。特別支援学校に通う児童生徒は肢体不自由など重度の障害をもつ方が多く受動的な活動であった。今回の普及啓発事業で実施したダイバーシティプログラム「コーラスチャレンジ」は障害を持つ方が主体的に文化芸術活動に参加できる機会を提供し、障害を持つ方も健常者と寄り添い協働するものとして新規に企画をした。今回の「コーラスチャレンジ」に参加した埼玉県立さいたま桜高等学園はクラブ活動として音楽部があり南部地区高等学校音楽祭に参加した実績がある。そこにアカペラグループINSPiが加わり、文化祭での共演に向けて音楽を通じた交流を行った。コーラスチャレンジ終了後、さいたま桜高等学園の教職員アンケートからは「音楽部生徒の自信につながった」「音楽部の生徒たちが生き生きしていた」などの生徒自身の積極性に気づきを感じたようであった。この積極性が主体的に参加することにつながっていると考えられるため、地域の文化芸術発展につながったと思われる。

【今後について】

今回の「コーラスチャレンジ」に参加したさいたま桜高等学園の教職員のアンケートによると、「練習への取組が演奏面に目が行きがちで最初のねらいであったアカペラを通しての人間関係作り、他者との調和、協働に迫り切れていない部分があり、音楽を通じたソーシャルスキルへのアプローチが課題であると感じている」という回答があった。高齢者や障害者は家族や施設職員、教職員などとコミュニケーションをとる機会が主であり他者とのコミュニケーションの機会構築が環境的に難しい。今後は、参加するアーティストが文化芸術を通じたスキルだけでなく、人と人との関わるコミュニケーションづくりに努めていきたいと考える。



さいたま桜高等学園音楽部とINSPiのレッスン



コーラスチャレンジ 本番の様子

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【当センターの人材育成について】

公益財団法人さいたま市文化振興事業団では、平成29年度に「公益財団法人さいたま市文化振興事業団文化芸術振興計画」を策定した。この計画の具体的な取組として、「基盤の整備一人材育成」があげられる。この計画に則りさいたま市文化センターも人材育成に取り組んでいる。

1. SaCLaサポーターズ（文化ボランティア）等地域住民の人材育成

平成29年度は、劇場音楽堂等活性化事業の助成金を活用し、アートマネジメント研修講座の一環で、接客研修や事業の企画研修、広報研修などを行い、平成30年度は、民間会社のホールサービス研修を受講した。令和元年度は、東京2020大会を考慮し、簡単な英会話でホールサービスを行う研修を予定している。他、若年層を劇場・音楽堂等に呼び込むことを目的に、学生ボランティアも発足予定である。

なお、SaCLaサポーターズは平成21年度より発足し、平成30年度時点で100名の登録がある。



2. さいたま市文化センターの専門的人材育成について

さいたま市文化センターにおける専門的人材の育成については、①外部研修への参加、②内部研修への参加、③先進地視察、④専門資格の取得を行っている。

例えば②内部研修については、平成29年度は、サービス研修、広報研修、企画研修、舞台技術研修、文化政策研修、文化ボランティア研修を行い、平成30年度は、アーツカウンシル業務を体験していく評価研修を行い、令和元年度は、文化政策関連法や、マーケティングに関わる研修を行う予定である。④の専門資格であるが、ボランティアコーディネーション力検定3級、接客サービスマナー検定2級、照明芸術検定2級、音響技術検定2級、知的財産管理技能検定2級、準認定フェンドレイザー、イベント業務管理士1級を各々の専門性に合わせ取得している。

このように地域人材とセンター内職員の人材を育成し、そのスキルを文化芸術事業の運営に生かしている。